

ブラジル 病気と気候変動によりオレンジ生産量が激減

[EUROFRUIT 2024年5月15日](#)

ブラジルのオレンジ生産者らは、気候変動の影響とカンキツグリーニング病に取り組む中、2024/25年度の収穫量がこの36年間で最低になりそうなことに備えている。

研究センターのFundecitrus(柑橘類栽培防衛基金)及びオレンジ果汁輸出業者協会CitrusBRによると、2つの主要なオレンジ産地であるサンパウロ州とミナスジェライス州では今年、前シーズンに比べて24.36%減となる2億3,238万箱(40.8kg/箱)を収穫する見込みだ。これは、生産量が2億1,400万箱であった1988/89年度以来の低水準となる。

ブラジルは世界最大のオレンジ果汁の生産・輸出国であり、世界の全輸出額の4分の3を占めている。4年連続の不作の後、世界の在庫量は歴史的な低水準となり、昨年は過去最高の価格を記録した。

Fundecitrusの代表者であるジュリアノ・アイレス氏のコメント: 数字に驚いている。気候変動は、業界に大きな影響を与えている。また、柑橘類の生産が競争力を維持するためには、カンキツグリーニング病に打ち勝たなければならない、我々はそれをやり遂げる。

執筆者: マウラ・マクスウェル

イタリア リンゴをCAコンテナでインドに試験出荷(2)

[FreshPlaza 2024年5月15日](#)

レッドデリシャス品種のリンゴをCAコンテナでインドに出荷

物流イノベーションに関するメリンダ協同組合連合会の取り組みは止まらない。今回は、スエズ運河の問題で海上輸送が長引いても品質保持期間を保証できる輸送システムに着目している。

今回の輸送を担当した物流会社のタルマコ社の要請に応じて海運会社のハパックロイド社が提供したCA(Controlled Atmosphere)システム搭載のリーファーコンテナは、デンノ社の倉庫(テンノ村(南チロル地方))からレッドデリシャス品種のリンゴ22トンを出荷するために使用された。

ジェノヴァから出発したコンテナは喜望峰に向かった。6月20日頃にナバシェバ港(インド)に到着することとなっている。

温度を適正に管理するのを助けるために使用されるCAは、輸送中に多くの生鮮食品の高い品質と良好な状態を維持し、品質保持期間を延ばすのに大きく貢献することができる。

CAは、相対湿度と温度を調節し、酸素(O₂)の減少と二酸化炭素(CO₂)の増加によって果実の周囲の大気組成を通常の空気とは異なるものにするを意味する。

メリンダの技術者らは、インドに到着した果実の品質を、従来型のリーファーコンテナを使用して輸送された別の荷の品質と比較する。品質がより良いことが確認されれば、紅海の危機が続き、船舶が中東や極東に到達するためにより長い距離の航海を強いられる場合、次のシーズンにこの技術が大規模に使用される可能性がある。